



新正会 渡邊 聡 議員

保育・教育施設のことども園化について

問 現在、山武市には、幼稚園と保育園が一体となった「ことども園」が、成東・松尾地域に5園設置されていますが、山武・蓮沼地域には設置されていません。その設置されていない地域の、保育施設への入園状況を伺います。

答 保健福祉部長 山武地域には私立保育園2園と公立幼稚園1園が、蓮沼地域には私立保育園1園がそれぞれあります。山武地域の私立保育園は、例年、各施設の定員程度の入園者がいますが、公立幼稚園では、定員の7割弱の入園者数となっています。蓮沼地域の私立保育園は、入園園児数の減少に伴い、定員を変更していることもあり、定員の9割強の入園者数となっています。

問 山武地域および蓮沼地域のことども園化について伺います。

答 市長 私立の保育園3園と、児童数の動向や運営状況について、定期的に話し合いを行っています。直近では、地域の少子化に伴う今後の園運営について、意見交換を行い、施設のことども園化について、その必要性を共有したところです。

市では、地域の少子化による入園者の減少が見込まれることや、園舎の老朽化に伴う維持費の増加などの問題を解消するため、2つの地域のことども園化を進めていきたいと考えています。

有害鳥獣対策について

問 県が策定した「第3次千葉県第二種特定鳥獣管理計画（イノシシ）」において、本市は拡大防止地域に指定されているものの、県の指定管理鳥獣捕獲等の事業の範囲には含まれていません。

本市も県の事業区域に含め、捕獲を実施するよう要望すべきと考えますが、見解を伺います。

答 産業振興部長 県が策定する特定鳥獣管理計画に指定された区域は、既存の市町村による有害鳥獣対策事業に加え、6月から11月中旬の猟期前までの期間において、県が委託した認定事業者が主体となり、わな猟が実施されることとなります。

今後、本市をこの指定区域に含めて捕獲を実施していただくよう、捕獲重点エリアの見直し、拡充を要望していきます。



森林整備について

問 近年の台風等の被害による、風倒木対策の進捗状況を伺います。

答 産業振興部長 令和元年の台風で受けた森林の被害は、概ね400ヘクタールです。

風倒木対策として、市が行う森林整備事業は、道路等の重要インフラ施設周辺の森林を整備する「災害に強い森づくり事業」を実施しています。本事業では、令和2年度に5・46ヘクタール、令和3年度に5・78ヘクタールの合計11・24ヘクタールの森林整備を行いました。

また、健全な森林再生を目指すことを目的とする「サンブスギ林総合対策事業」では、令和2年度に4・02ヘクタール、令和3年度に2・94ヘクタールの合計6・96ヘクタールの森林整備を行いました。

問 これまで実施した主な場所と今後の予定地を伺います。

答 産業振興部長 これまで実施した主な場所は、あららぎ館付近の市道植谷戸田線沿い、9・65ヘクタールです。

今後予定する候補地の選定については、風倒木等の被害率等、森林所有者の意向を確認し、千葉県北部林業事務所と協議しながら、適切な事業箇所を選定していきます。

問 浦安市とのカーボン・オフセットの取組について伺います。

答 産業振興部長 千葉県の仲介により、令和4年3月に「浦安市と山武市の連携による森林整備の実施に係る協定」を締結しました。この協定の期間は5年間で、その主な内容は次の2点です。

- ①本市が行う森林整備費用の一部を浦安市に負担していただく代わりに、森林整備によって得られる二酸化炭素吸収量を、浦安市で発生する二酸化炭素排出量と相殺する。なお、その相殺量は、5年間で約60トンと想定。
- ②山武市産の木材を利用した木製品を調達し、浦安市に提供する。

問 二酸化炭素吸収量の測定方法を伺います。

答 産業振興部長 千葉県が創設した「美しいちばの森林づくり・森林整備によるCO₂吸収量認証制度」の算定基準により、算定されます。

二酸化炭素吸収量は、森林整備を行う面積、樹種、樹高および林齢等を計算式に当てはめて測定しますが、二酸化炭素吸収量を得る効果が一番大きいものが、今年度実施される「間伐」となります。